

第 13 回肩関節機能研究会のお知らせ

日 時：2018 年 12 月 1 日（土）午後 3 時から
場 所：千代田ファーストビル西館 3F カフェテリア
参加費：5000 円
テーマ：「胸郭と肩関節機能について」

お渡しする胸郭の資料が 30 ページを超し（解説部は日本語、文献はすべて英語）、120 名分で 3600 ページにもなり運べません。そこで、参加者の皆さまに 12 月中に添付ファイルでメールいたします。ご容赦頂ければ幸いです。

2019 年を胸郭の研究元年にいたしましょう。胸郭機能の低下と肩関節機能障害とは関係あるだろうと薄々感じていた皆さま、今回の肩機能研究会で全てを理解できるわけではありません。むしろ、これくらいしか分かってないのかと失望される方も多いでしょう。しかし視点を変えれば胸郭を研究すれば、肩関節機能研究の最先端に立てます。

お送りする資料から少し説明しましょう。Crosbie J が *Scapulohumeral rhythm and associated spinal motion* というタイトルの論文を *Clin Biomech (Bristol, Avon)*. 2008; 23(2): 184-92 に掲載しました。これは効き手・非利き手の片側挙上、両手挙上において胸椎/肩甲骨/上腕リズムを確認した最初の論文です。胸椎と肩関節機能に関する良い論文は 9 編、肩関節疾患と胸椎機能・変形の論文は 6 編あります。肋骨運動の解析は、Saumarez RC. *An analysis of possible movements of human upper rib cage*. *J Appl Physiol*. 1986; 60(2): 678-89 に始まると言えるでしょう。1990 年代までのデータは Ward ME, Macklem PT. *Kinematics of the chest wall*. in *The thorax Part A edited by Roussos C, Physiology (in three parts)*, 2nd ed, Marcel Dekker, Inc., New York, 1995, p515-33 にまとめられています。ただし、理解するにはかなりの労力を要します。Kindig MW によると *Characterization of the centroidal geometry of human ribs*. *J Biomech Eng*. 2013 Nov;135(11):111007、第 2-5 肋骨と 6-10 肋骨で動きが異なると述べています。最近の論文でおもしろい内容は、Wilke HJ らの *In vitro analysis of the segmental flexibility of the thoracic spine*. *PLoS One*. 2017;12(5): e0177823. です。T1-2 の運動量は屈曲/伸展、側屈、回旋において最も多いようで、TOS が第 1 肋骨/鎖骨間で起こったり、第一肋骨の疲労骨折が起こることも納得できます。資料説明はこのくらいで止めましょう。

講演を拝聴し、胸郭について意見交換をいたしましょう。また、たくさんの参加者に意見を述べていただく予定です。今回の企画が皆さまの診療、スポーツの現場に役立つことを願いつつ。

2018 年 11 月 14 日

肩機能研究会事務局 浜田純一郎

Time table

15:00

開会の挨拶 浜田純一郎

15:05-15:55

1. 「胸郭の臨床解剖」 東京医科歯科大学臨床解剖学分野教授 秋田恵一先生
座長 立原久義先生

16:00-16:50

2. 「肋骨運動について」 文京学院大学理学療法学科教授 柿崎藤泰先生
座長 船越忠直先生
遠藤和博先生

17:00-17:50

3. 「肋骨、鎖骨、肩甲骨—現象からの推測」 セララボ 山口光國先生
座長 浜田純一郎
齋藤 崇先生

18:00-18:50

4. 「体幹機能と肩関節障害」 早稲田大学スポーツ科学院教授 金岡恒治先生
座長 西中直也先生
高間省吾先生

19:00-20:00

総合討論 司会：浜田純一郎, 山口光國

解剖について

肋骨と肩関節機能について（浜田から提案）

肋骨運動を診察・治療にどう繋げるか

胸郭と肩関節障害（浜田から提案）

20:00

閉会の辞 筒井廣明

会場案内

ジョンソン・エンド・ジョンソン 千代田ファーストビル3F カフェテリア
 〒101-0065 東京都千代田区西神田3-5-2

